

上杉春雄 レクチャー&コンサート

音楽のかたち、いろ、うごき

～医学と音楽 両面からのアプローチ～

ピアノを演奏している時、脳はどのような活動をしているのでしょうか？今回はピアニストとして、神経内科として広く活躍されている上杉春雄先生が、音楽と脳の関わりを目で、耳で、頭でわかるように解説いたします。大人も子どもも、ピアノを演奏することで“音楽で脳を活性化”させましょう！

上杉春雄

(うえずきはるお)



ピアニスト・医師。1967年、北海道生まれ。ピアニストとして、ソロ、協奏曲、室内楽などのステージおよびレクチャーを行い、2013年にデビュー25周年を迎えた。PTNA G級金賞・グランプリ、マリア・カナルス国際コンクール上位入賞など受賞多数。1988年東芝EMIよりCDデビュー、サントリーホール、大阪ザ・シンフォニーホールでのリサイタルを皮切りに、これまで札幌コンサートホールKITARA、紀尾井ホール、浜離宮朝日ホール、ハクジュホール、兵庫県立芸術文化センター等、全国各地でのソロリサイタルや、札幌交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、東京フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団など共演多数。ライフワークとするバッハ演奏では、2012年にリリースした「平均律クラヴィア曲集第1巻」(オクタヴィア)が「レコード芸術」誌上で特選盤に選ばれるほか、全国各地でレクチャーを行う。NHK-FM「名曲リサイタル」、浜離宮ランチタイムコンサート、Hakuj Hall「リクライニング・コンサート」等に出演。また勤務先などでも病院内コンサートを開催、これらの活動はNHK「芸術劇場」、「未来への展望」、読売新聞「顔」欄などで取り上げられている。執筆、翻訳にも精力的に取り組み、歌唱伴奏を師事した世界的なコレペイトウA.M. カッツ氏の著書「ピアノ共演法」を翻訳(音楽之友社)。また、中丸三千繪、波多野睦美、故G. Sima(元ウィーン国立歌劇場専属歌手)、森麻季らの歌手と共演、器楽奏者では、諏訪内晶子、川本嘉子、藤原真理、A.スコッチャらと共演を重ね、近年は、クアチアアやオーストリアなど海外でのリサイタルも行っている。北海道大学医学部卒、東京大学大学院医学研究科修了。スウェーデン・ウプサラ大学臨床神経生理部門留学。医学博士、日本内科学会認定医、日本神経学会専門医。札幌医科大学神経内科臨床教授。

♪第1部：レクチャー♪

◆音楽のかたち

脳のどの部分が働いて、楽譜や音楽をとらえているか？
さまざまな図版を用いてわかりやすく説明します。

◆音楽における“いろ”

楽譜を見ながら音形や和声の移り変わりを感じて、
音楽の“いろ”を体感します。

◆音楽のうごき

音の動きを作る体の動き、そして音楽から生まれる心の動き。
音と体と心を、「動き」でつないでみましょう。

♪第2部：コンサート♪

Carl Czerny「チェルニー40番」より

J.S.Bach「パルティータ第2番 ハ短調 BWV 826」 他

●日時

●受講料(税込)

●会場

●著者関連書籍

『チェルニー30番』『チェルニー40番』標準版New Edition
『ピアノ共演法 パートナーとしてのピアニスト』(音楽之友社)

●お問合せ・お申込み先

キリトリ線

行 申込日 月 日

お名前			
ご住所	〒		
TEL		FAX	
E-Mail			
種別	一般 ・ 会員		

※〇印をおつけください。ご記入いただいたお客様の個人情報は、この講座の控えとしてのみ使用させていただきます。

上杉春雄

レクチャー&コンサート

年月日()

「音楽のかたち、いろ、うごき」

申込書